

行ってきました会派視察研修

住民主導で検討「茅野市民館」 環境モデル都市「飯田市」の取り組み

日本共産党市議団は1月22日長野県茅野市、23日飯田市に視察研修を行いました。その内容を報告します。

長野県茅野市

諏訪盆地の中央に位置、人口5万7千人、面積266平方kmの市。住民主導、行政支援による「パートナーシップのまちづくり」を展開している。

茅野市館について

袋井市では今年4月から月見の里学遊館を指定管理者制度で文化協会グループの管理に、来年度中の完成を目指して建設が進められている浅羽のメロブラザの管理運営方針の検討がすすめられております。

そうしたこともあり、基本構想を創る・設計者の選定・設計するまで住民主導で検討が行われた「市民館」の建設経緯、施設管理について何うとともに、施設の見学をしてきました。

施設の概要

敷地面積 15,533㎡、建築面積 6,011㎡
用途 劇場、音楽ホール、美術館、図書館、展示室
総事業費 50億6039万円
竣工 平成17年3月（全面開業は10月）



基本構想検討に利用者、専門家、学識経験者など23人が参加。県内外の施設の視察とワークショップを実施し基本構想案がまとめられました。設計者選定もプロポーザル方式で行われ、全ての過程が一般公開方式で行われました。また管理運営計画も市民、専門家、行政の協働で策定されました。

現在、市が100%出資の「株式会社地域文化創造」が指定管理者となっています。

周辺施設との差別化、舞台、楽屋など十分な広さ、ホール正面を全面開放し多目的なイベントにも使える工夫など市民の意見が随所で反映された設計となっているとのことでした。

長野県飯田市

南信州の中央部に位置、人口10万7千人、面積658平方キロメートルの市。今年の1月23日に国の「環境モデル都市」に選定された。（訪問した当日）

「おひさま」と「もり」のエネルギーが育む 低炭素な環境文化都市の創造

削減目標を2030年に民生部門で40～50%、2050年には地域全体で70%を目指すとしています。

そのために、豊かな自然から生まれる自然エネルギー（太陽光・木質ペレットなど）を総合的に利用、中心市街地で自然エネルギー供給の実証を行う、住民参加で意識やライフスタイルの転換、が提案の主な内容となっています。

おひさま市民共同発電所事業

飯田市は、雪は降るが意外にも日照時間の長く、日射量も豊富でこれを生かすために太陽光発電の推進をしています。

パートナーシップ型環境公益事業実現のため、NPOを主体に「おひさま進歩エネルギー有限会社」を立ち上げ市民に出資を募り、市も公共施設の屋根を無償提供するなど支援し、太陽光発電設備の設置をすすめ、これまでに343箇所の公共的な施設に設置されました。その総発電量は約365kwにのぼります。

木質バイオマスの利活用

豊かな森林資源の有効活用、エネルギー資源の地域循環を目指しています。具体的には、木質ペレットの製造、供給のシステムを確立していくことで、現在は市内の小中学校40箇所にペレットボイラーが設置されています。将来的には街中でセントラル熱供給も目指すとしています。



見学した市立座光寺保育園。

内装に木をふんだんに使用しているほか、ソーラー発電システム、オール電化厨房、木質ペレットの給湯・暖房システム、雨水貯留タンクの設置など環境に配慮されている。